

Oxford Reading Tree Level 5 More Stories A

- ① The Whatsit [305 語]
- ② Underground Adventure [292 語]
- ③ Vanishing Cream [313 語]
- ④ It's Not Fair [368 語]
- ⑤ The Great Race [324 語]
- ⑥ A Monster Mistake [334 語]

The Whatsit 「なんとかというもの」 (305 語)

Before Reading

4 人の子どもがなぞの物体を囲んで考えこんでいます。いったいこれは何なのでしょうか。また題も Whatsit とまるでミスプリのような題ですね。

	The Whatsit	なんとかというもの
1	Mum and Dad painted the kitchen. Dad painted the ceiling. Mum painted the walls.	パパとママは台所のペンキ塗りをしました。 パパは天井を塗りました。ママは壁を塗りました。
2	Mum pulled up the old carpet. “The walls look good,” she said. “But this looks a mess.”	ママは古いじゅうたんをはがしました。 「壁がよく見えるわね」とママは言いました。 「でもこれが問題よね。」
3	Dad looked at the floor. “We need a new carpet,” said Biff.	パパは床をみました。「新しいじゅうたんが必要よね」とビフは言いました。
4	Mum found a trap door. She pulled it up.	ママは落とし戸を見つけました。 ひっぱって開けてみました。
5	Everyone looked. “It’s a cellar,” said Dad.	みんながのぞきました。 「地下室だ」とパパが言いました。
6	Mum went into the cellar. “It looks big,” she said.	ママが地下室に下りていきました。 「広いみたいだわ」とママが言いました。
7	The children looked in. “It looks dark,” said Biff. “It looks spooky,” said Chip.	子どもたちが中をみました。 「暗いわ」とビフが言いました。 「ぶきみにみえるよ」チップが言いました。

8	Dad got a light. They went into the cellar.	パパがライトを持ってきました。 みんなは地下室に入っていました。
9	Kipper found an old sheet. "I'm a ghost," he said. 'Whooooooooooooaa...!'	キッパーは古いシーツを見つけました。 「おばけだぞ」とキッパーは言いました。 「わ—————！」
10	"Look at this," said Kipper. "What is it?" asked Chip.	「これを見て」キッパーが言いました。 「それはなあに？」チップが聞きました。
11	"I don't know," said Mum. "It's a whatsit," said Dad.	「わからないわ」ママが言いました。「なん とかというものだよ」パパが言いました。
12	Wilf and Wilma came to play. They looked at the whatsit. "What is it?" asked Wilma.	ウィルフとウィルマが遊びにやってきました。 ふたりはなんとかというものを見まし た。「それはなあに」とウィルマがたずね ました。
13	"It's a whatsit" said Chip. "We found it in the cellar."	「それはなんとかっていうのさ」チップが言 いました。「僕たちが地下室でみつけたん だ」。
14	Two men came to the house. They came in a lorry. They took away the old things.	二人の男性が家にきました。 トラックできました。 古いものを持っていきました。
15	One man looked at the whatsit. "What is it?" he asked. "It's a whatsit," said Dad.	ひとりの男性がなんとかというものを見ま した。「これは何ですか」とたずねました。 「これはなんとかというものなんです」とパ パが言いました。
16	The men took the whatsit. They put it in the lorry. A car stopped.	男の人たちはなんとかというものを持って いきました。それをトラックに入れました。 車が止まりました。

- | | | |
|----|--|--|
| 17 | A lady jumped out and called to the men.
"Stop!" she said. | 女性が中から飛び降りてきて、男性をひきとめました。
「待って！」と彼女は言いました。 |
| 18 | The lady wanted the whatsit.
She wanted it for a museum.
The men put it in the car. | 女性はなんとかというものを欲しがりました。博物館のために欲しかったのです。
男性が車にそれを入れます。 |
| 19 | The lady gave Dad some money.
"Come to the museum," she said, "and bring the children." | 女性はパパにいくらかお金を渡しました。
「博物館にいらしてください」女性が言いました。「子どもを連れてきてください。」 |
| 20 | The whatsit was in the museum.
Mum and Dad went to see it. | そのなんとかというものは博物館にありました。
ママとパパが見にいきました。 |
| 21 | They took Biff, Chip and Kipper.
"So that's what it is," said Dad. | ママとパパはビフ、チップ、キッパーを連れていきました。「ああこうだったんだね」パパが言いました。 |
| 22 | Mum and Dad had a surprise.
It was for the children.
"What is it?" asked Biff. | ママとパパは思いがけないものを用意していました。子どもたちにでした。
「何かしら」ビフが聞きました。 |
| 23 | "It's a whatsit," said Dad.
He pulled off the sheet. | 「なんとかっていうやつだよ」パパが言いました。パパはシーツをはがしました。 |
| 24 | The whatsit was a snooker table. "It's brilliant!" they said. | なんとかというのは、スヌーカーのテーブルでした。「すばらしい！」と子どもたちは言いました。 |

After Reading

このなぞの物体は毛糸を巻くものだったのですね。昔の時代には、きっとこのように毛糸を巻いていたのだというのがしのばれます。昔は、編み物やキルティングというのは女性にとって大切な任務だったようです。

本を読んでいくときには、すべての単語を知っているというわけではありません。知らない単語に出会ったときに、推測していくというのにも必要になってきます。ここではたとえば p.18 の museum を知らなかったとしますと、最初に museum の女性が訪れたときには、その意味がはっきりしないかもしれません。しかし、ページをめくっていくと実際に whatsit が陳列されている場面が出てきます。ここで、このように模型があつて陳列されている所といえば、博物館とか美術館かなとわかればしめたものです。

はじめからわからないと辞書を引くのではなく、なるべくこのように考える癖をつけていきましょう。

何かわからないときは Whatsit

whatsit というのは、ちょっと変わった言葉に見えますね。これは、言葉が思い出せないときや、その言葉を言いたくないときに漠然と「あの何とかというもの」と指している言い方です。似た言い回しには、what's-its-name、you-know-what「例のあれ」もありますが、you-know-what は性的な「ナニ」という意味も持ちます。

クラスで楽しもう

教室では、whatsit がいったい何であるのかをみんなで想像していきましょう。お話を推測する楽しみを養うことと、みんなの前で発表することに慣れるのが目的です。

準備するもの： 画用紙またはミニホワイトボード(人数分)
色鉛筆・クレヨン・マーカーなど

1) 最初に本を読むときに、p.19 でいったんページを止めます。

- 2) いったい whatsit が何であるのかを想像するために、最初は whatsit がどのように動くか、大きさはどのくらいかなどを話し合しましょう。また地下室から発見された状況からしていつ頃の話なのかも予測しましょう。
- 3) ある程度想像したら、次は何に使われているかを絵に描いていきます。画用紙またはホワイトボードに I think the whatsit is a と書き、□にそれぞれ思ったことを書きます。スペルがわからない場合には指導者が教えます。少人数ならば、小さなホワイトボードを使うと楽しくお絵かきができます。(100 円ショップなどで購入できます。)
- 4) それぞれの予想を発表します。発表させる前に、何度か全員で練習します。少人数ならばひとりずつ全員の前で、大人数ならばグループに分けてその中で発表します。

例: I think the whatsit is a _____

発表するときには、発表者はみんなの前に立ちます。聞き手は座っています。大きな声で笑顔で発表していきます。聞き手は、話している人の方をきちんと見て終わったら拍手をしましょう。指導者はうまくできてもできなくても、“Good job.” などのようにほめことばをかけてあげて、自信を持てるようにして下さい。

ことばの解説

- p.4 trap door 床または天井についているドア
- p.5 cellar 地下室(貯蔵庫として使われることが多い)
- p.7 spooky 薄気味悪い(おばけが出そうな感じ)
- p.9 sheet シーツ、用紙
- p.11 whatsit 何とかというものの、あれ(名前が思い出せないときや、その名前を言いたくないときに使うことば)
- p.14 lorry トラック(米語では truck と言う)
- p.18 museum 博物館・美術館(米語では museum という主と主に美術館をさします。)
- p.24 snooker スヌーカー スヌーカーは、ビリヤードのゲームのひとつである。15 個の赤色の球と 6 個のカラーボール(青・ピンク・黒・茶・緑・黄)を使う。

Underground Adventure 「地中探検」 (292 語)

Before Reading

本格的な探検のはじまりを予感させる地下のランプです。いったい表紙のトンネルの先には何が待っているのでしょうか。

Underground Adventure	地中探検
1 The children were in the cellar. They wanted to find a secret tunnel.	子どもたちは地下室にいました。 秘密のトンネルを探そうとしていました。
2 The children looked everywhere. They tapped on the floor. They tapped on the walls	子どもたちはあちこちを探しました。 床をたたいてみました。 壁もたたいてみました。
3 But there was no secret tunnel. “It’s no good,” said Biff.	でも、秘密のトンネルはありませんでした。 「ないわね」とビフが言いました。
4 Kipper ran to the cellar. He had the magic key. The key was glowing.	キッパーが地下室に走ってきました。 マジック・キーを持っていました。 カギは光っていました。
5 They ran to Biff’s bedroom. “Come on!” called Kipper. “It’s time for a magic adventure.”	子どもたちはビフの部屋に走っていきました。 「さあ！」とキッパーは叫びました。 「魔法の冒険の時間だ」。

6	The magic took them underground. They were in a big tunnel.	魔法で子どもたちは、地下の世界にきました。 大きなトンネルの中にいました。
7	Wilma picked up a lamp. “Come on,” she said. “Let’s go!”	ウィルマはランプを持ち上げました。「さあ」ビフは言いました。 「出発！」
8	There were elves in the tunnel. But they were shy. “Oh no!” they said. “Children!”	トンネルには小人たちがいました。 でも小人たちは恥ずかしがりやでした。 「だめだ！」と小人たちは言いました。「子どもたちだ！」
9	The children went down the tunnel. They didn’t see elves. “This way,” said Wilma	子どもたちはトンネルを進んでいきました。 小人たちに気づきませんでした。 「こっちよ」フィルマが言いました。
10	The children came to a big cave. “Wow!” said Biff.	子どもたちは大きな洞窟にたどりつきました。 「すごい！」ビフは言いました。
11	The elves looked at the children. “Oh dear!” said the elves. “Oh dear! Oh dear!”	小人たちは子どもたちを見つけました。 「どうしよう！」小人たちは言いました。 「どうしよう！ どうしよう！」
12	The cave had an echo. “Whoooooaa!” called Kipper. “Whoooooaa!” went the echo.	洞窟では音が共鳴しました。 「わー！」とキッパーが言いました。 「わー！」とこだましました。
13	“Whoooooaa!” went Kipper. The elves laughed. They laughed and laughed.	「わー！」とキッパーが言いました。 小人たちは笑いました。 小人たちはわっはっはと笑いました。

14	The elves came out. They ran to say hello.	小人たちは出てきました。 挨拶しに走ってきました。
15	“Whoooooaa!” they went. “Whoooooaa!” went the echo. And everyone laughed.	「わー！」と小人たちは言いました。 「わー！」とこだましました。 みんなが笑いました。
16	The elves were sad. They had no work.	小人たちは悲しいのです。 仕事がなかったのです。
17	“Can you help?” said the elves. “Our gold has run out. We don’t know what to do.” 【Last month: some gold This month: NO GOLD! Next month: HUNGRY!】	「手伝ってくれない？」と小人たちは言いました。「金がなくなってしまったんだ。どうしてよいのかわからないのさ」。 【先月：金 少しあり。 今月：金 なし！ 来月：飢える!】
18	Wilma had a good idea. She told the elves what it was.	ウィルマはよい考えを思いつきました。 それを小人たちに伝えました。
19	The elves liked Wilma’s idea. They painted some signs. The children helped.	小人たちはウィルマの考えを気に入りました。標識を書きました。 子どもたちは手伝いました。
20	The elves put lights in the caves. The caves looked beautiful.	小人たちは洞窟に電気をつけました。 洞窟は美しくなりました。
21	People came to see them. The elves were happy.	人々は見に訪れました。 小人たちは幸せでした。
22	The elves were busy. “Thanks to the children,” they said.	小人たちは忙しくなりました。 「子どもたちのおかげだ」と小人たちは言いました。

- | | | |
|----|--|---|
| 23 | The magic key began to glow.
It was time to go home. | マジック・キーが光り始めました。
家に帰る時間になりました。 |
| 24 | “What an adventure!” said Wilf. “I have a good idea,” said Chip.
【Visit the spooky cellar. Only 10P!】‘What do you think?’ | 「なんていう旅なの！」ウィルフが言いました。「よい考えがあるんだ。」とチップが言いました。
「【おばけの出そうな地下室にきませんか。たった 10 ペンス!】っていうのはどう？」 |

After Reading

子どもたちのマジック・キーでの冒険もだいぶ慣れてきたようです。p.5 ではかなりスムーズに小さな家の中に入り込んでいきます。この絵本に出てくる小人たちは表情豊かで感情もわかりやすく描かれています。子どもたちは役立ちたいと一生懸命でした。

無生物主語

英語で「秘密のトンネルがなかった」という時には、何と言いますか？ p.3 を開いてください。But there was no secret tunnel. 「でも秘密のトンネルはありませんでした。」とあります。このように〈何々がなかった〉という時には、英語では〈ないものがあつた〉という言い方をして、〈ない〉という事をあらわします。p.16 にも They had no work. 「仕事がなかったのです。」というのも出ています。

英語でしゃべろうとしたときに、日本語から英語に変換して話しをする方も多いかと思えます。その場合に、英語と日本語では文章の作り方の発想が異なるので、肯定文に no~をつけて、〈ない〉と表現をすることなど文章をそのまま覚えて使ってみましょう。

クラスで楽しもう

小人の表情から、あてはまる言葉を推測していき言葉の理解を深めます。

準備するもの：ポストイット

- 1) 文章の一部の単語を抜いて、ホワイトボードに書き出します。ここでは抜いた部分を下線で示します。

板書例：

p.13 The elves laughed. 実際には The elves のように書きます。

p.16 The elves were sad.

p.21 The elves were happy.

p.22 The elves were busy.

laughed sad happy busy

- 2) 子どもたちはそれぞれがポストイットに laughed, sad, happy, busy と書きます。一回書くことで、スペルの練習になります。
- 3) 該当ページを1ページずつ絵だけ見せて、それぞれのページの空白に何が入るかを2)のポストイットから選んで、いっせいに指導者にみせていきます。
- 4) 答え合わせは、CDを聞きながら行います。

ことばの解説

p.2 tap (ped) 軽くたたく p.5 adventure 冒険

p.8 elves 「elf」の複数形。おとぎ話に出てくる小人・妖精

p.9 way 道、方法、やり方 p.10 cave 洞窟、洞穴

p.12 echo 反響する、こだまする p.22 thanks to ～ ～のおかげで

Vanishing Cream 「消えるクリーム」 (313 語)

Before Reading

表紙のチップの手に注目してください。消えてきています。題の vanishing の意味はこのイラストから伝わってきますね。

	Vanishing Cream	消えるクリーム
1	The children were at school. They made a little theatre. They made it out of a box.	子どもたちは学校にいました。 子どもたちは小さな劇場を作りました。 箱で作りました。
2	The children put on a play. The play was about a wizard.	子どもたちは劇を上演しました。 魔法使いについてでした。
3	He was called Wizard Blot. Wizard Blot made mistakes.	男の魔法使いはプロットと言いました。 魔法使いプロットはまちがいをおかしました。
4	Wizard Blot made a spell. The spell went wrong. “Oh, dear! Oh dear!” said Wizard Blot.	魔法使いプロットは呪文を唱えました。 呪文をまちがえてしまいました。 「どうしよう！ どうしよう！」と魔法使いプロットが言いました。
5	Everyone laughed. Everyone liked the play. Mrs May liked Wizard Blot.	みんなは笑いました。みんな劇が好きでした。 メイ先生は魔法使いプロットを気に入りました。
6	Biff was in her room. The key began to glow. “Chip! Chip!” called Biff.	ビフは部屋にいました。 キーが光り出しました。 「チップ!チップ！」とビフは叫びました。

- | | | |
|----|---|---|
| 7 | Chip ran into Biff's bedroom.
The magic took them inside the little house. | チップはビフのベッドルームに走っていきました。魔法でふたりは小さなおうちに入っていました。 |
| 8 | The magic took them to Wizard Blot's house.
The Wizard wanted some help.
【Wanted. Boy or girl to help.
Jobs! Mixing spells. Cleaning up.
Apply within.】 | 魔法で魔法使いプロットの家に着きました。
魔法使いは助けを求めています。
【求む お手伝いの男の子か女の子。
仕事！魔法づくり。そうじ。応募は家の中へ】 |
| 9 | "Come in!" said the Wizard.
"I wanted one helper, but two will do." | 「入ってきて！」と魔法使いは言いました。
「欲しいのはひとりなんだが、ふたりでもよいんだ」。 |
| 10 | "Come in!" said the Wizard.
"You can wash up, then you can tidy up." | 「入ってきて！」と魔法使いが言いました。
「洗い物をしてくれて、片付けてくれていいんだよ」。 |
| 11 | Biff and Chip looked at the mess.
"Don't be lazy," said the Wizard,
"or I'll turn you into frogs." | ビフとチップはめちゃくちゃな様子を見渡しました。「さあさぼってないで。」と魔法使いは言いました。「さもないとカエルにしまうぞ」。 |
| 12 | Biff and Chip did the washing up.
"I don't like this," said Chip, "but I don't want to be a frog." | ビフとチップは洗い物をしました。
「やりたくないな。」とチップは言いました。
「でもカエルになんてなりたくないし」。 |
| 13 | "I don't like ironing," said Biff,
"but we don't want to be frogs." | 「アイロンかけは好きじゃないわ。」とビフが言いました。「でもカエルになんかなりたくないし」。 |
| 14 | Oh no! Biff dropped a bottle.
It was vanishing cream. | うわっ！ビフがビンを落としてしまいました。
それは消えるクリームでした。 |

15	“Help!” said Biff. “This is vanishing cream.”	「助けて！」とビフが言いました。 「これは消えるクリームよ」。
16	Chip looked at his hands. “Oh no,” he said. “Bits of us are vanishing.”	チップが両手を見ました。 「どうしよう」とチップは言いました。 「ぼくたち部分的に消えてるよ」。
17	He rubbed his face. “Oh no!” said Biff. “Your face is vanishing.”	チップは顔をこすりました。 「あらやだ！」とビフが言いました。 「チップの顔が消えてきている」。
18	A man came to the house. He climbed through the window.	男が家に入ってきました。 男は窓から入り込んできました。
19	The man didn’t see Biff and Chip. He took all the Wizard’s computer disks.	男はビフとチップが見えませんでした。 魔法使いのコンピューターディスクをすべて取 ってしまいました。
20	“Help! Help!” said the man. “I’m being attacked by the washing.”	「助けて！助けて！」と男は言いました。 「洗濯物におそわれている」。
21	Wizard Blot came back. Biff told him about the vanishing cream.	魔法使いブロットが帰ってきました。ビフは消 えるクリームについて話しました。
22	Chip gave Wizard Blot the computer disks. The Wizard was pleased.	チップは魔法使いブロットにコンピューターディ スクを返しました。 魔法使いは喜びました。
23	It was time to go home. “Thank you,” said Wizard Blot. “Do come again.”	家に戻る時間になりました。「ありがとう」と魔 法使いブロットは言いました。 「ぜひ、また来てね」。
24	Biff had a little bottle. “Don’t drop it,” said Chip. “It’s vanishing cream.”	ビフはちっちゃなビンを落としてしまいました。 「落とさないで」とチップは言いました。 「消えるクリームだよ」。

After Reading

思いがけないこと続きでしたね。最後にお部屋に戻ってからピフがまた消えるクリームをこぼしてしまいました。いったいどうなってしまうのでしょうか。

魔法使い

英語の職業や人をさす言葉の中には、男性と女性を区別するものがあります。魔法使いもそうです。魔女は witch と言いますが、男の魔法使いは wizard です。wizard は wizard at Shogi 「将棋の名人」、wizard at P.E 「体育の天才」などのように「天才」の意味でも使われます。しかし、この場合に女性で何かがすぐれていても、wizard を使うのです。Harry Potter も wizard です。「オズの魔法使い」は The Wizard of Oz です。

クラスで楽しもう

絵を描いて切り抜き、それらを見せながらセリフとともに言ってみます。劇というほど大掛かりなものではなく、簡単にお話を再現できてよい訓練になります。何度も覚えるくらいに本を CD に合わせて読んだり聞いたりしてから行います。

準備するもの： 画用紙、色鉛筆・マーカーなど

- 1) p.8 から p.23 までのページを使います。
- 2) 登場人物(魔法使いプロット、ピフ、チップ、男)の 4 人を 1)のページからすべて紙にうつし、色塗りしていきます。子どもたちひとりにつきひとりのキャラクターを割り当てて、描いてもらいましょう。絵を描くのが苦手な子どもがいる場合には、トレーシングペーパーで映し絵にすると抵抗なくできます。
- 3) 描いた絵を切り取ります。トレーシングペーパーに写した場合は、別の画用紙にはってから切り取ります。
- 4) 絵を割り箸にはりつけます。

- 5) 出てくる順番にページごとに用意した絵を並べておきます。
- 6) ナレーター(セリフ以外)、魔法使いプロット、ビフ、チップ、男(セリフの部分)を言う担当を決めます。
- 7) 人数が多ければ、6)のセリフを言う人と別々に、絵を言葉に合わせて見せる担当を決めます。人数が少ない時には、セリフを言う人が絵も見せるようにします。
- 8) お話に沿って読みながら絵を見せていきます。

ことばの解説

- p.2 put on a play 劇を上演する p.4 spell 呪文・魔法
p.9 will do ~でもよい、目的を果たす
p.10 tidy up 片付ける tidy up the room ならば「部屋を片付ける」
p.11 turn A into B AをBに変える
p.12 wash up 洗って片付ける・顔や手を洗う p.14 vanishing 消える
p.16 bits of~ 少しの~ 「ほんの少し」ならば tiny bits of という。
p.17 rub (bed) こする p.22 be pleased (was pleased)喜んで
p.23 Do~ ~してね、と強調する言い方

It's Not Fair 「不公平だわ」 (368 語)

Before Reading

(表紙を見て)ビフの格好はなんともいえないものです。ドレスにスケボー、マジック・キーまで手に持っています。いったい何が起きているのでしょうか。

	It's Not Fair	不公平だわ
1	Mrs May was ill. The children had a new teacher. He was called Mr Fry.	メイ先生が病気になりました。 新しい先生が子どもたちのもとにきました。 彼はフライ先生と言いました。
2	It was story time. The children sat in the reading corner.	お話の時間になりました。子どもたちは 読むコーナーにすわりました。
3	Mr Fry had a new story. The story was about a king. He was called King Arthur.	フライ先生は新しいお話を読みました。 王様についてでした。 王様はアーサー王と言いました。
4	"Here is King Arthur," said Mr Fry, and here are his knights. They lived a long time ago."	「アーサー王がいます」とフライ先生は言 いました。「騎士もいます。 ずっと昔に住んでいました」。
5	King Arthur had a round table. All the knights sat round it. They liked the round table.	アーサー王は円卓を使っていました。 騎士が全員囲んですわりました。 みんな円卓を気に入っていました。
6	The children did a project. The boys were knights. "It's not fair," said Biff.	子どもたちはプロジェクトにのぞみました。 男の子たちは騎士でした。 「不公平だわ」とビフが言いました。

7	Biff wanted to be a knight. “It’s not fair,” she said. “Why can’t girls be knights?”	ビフは騎士になりたがっていました。 「不公平だわ」とビフは言いました。 「なぜ女の子は騎士になれないの？」
8	Biff was in her room. She wanted to go kateboarding. But the magic key began to glow.	ビフは自分の部屋にいました。 スケボーに行こうとしていました。 しかし、マジック・キーが光り始めました。
9	“Oh blow!” said Biff. “I wanted to go skateboarding.”	「キヤー！」とビフは言いました。 「スケボーに行きたかったのに」。
10	The magic took Biff to King Arthur’s castle. It put her in a dress.	魔法でビフはアーサー王の宮殿につきました。ドレスを着せられていました。
11	“Yuk!” said Biff. “I wanted to be a knight. Knights don’t wear dresses.”	「ゲー！」とビフは言いました。「騎士になりたかったのに。騎士はドレスなんて着ないわ」。
12	Biff was cross with the magic. She saw some knights. “Can I be a knight?” she said.	ビフは魔法に怒っていました。 騎士が何人か見えました。 「騎士になれますか？」とビフは聞きました。
13	The knights laughed. “But you are a girl,” they said. “Girls can’t be knights.”	騎士たちは笑いました。 「女の子なのに。」と騎士たちは言いました。「女の子は騎士になれないのだよ」。
14	Biff got on her skateboard. “You couldn’t do that,” she said. “Now can I be a knight?”	ビフはスケボーをしてみせました。 「あなたがたにはできないでしょう」とビフは言いました。「これで騎士になれますか？」

- | | | |
|----|--|---|
| 15 | The knights were amazed.
“We’ll have to ask King Arthur,”
said the knights | 騎士たちは驚きました。
「アーサー王に聞かねばなるまい」と騎
士たちは言いました。 |
| 16 | The knights took Biff to King
Arthur. “This is Biff,” they said.
“She wants to be a knight.” | 騎士たちはビフをアーサー王の所に連れ
ていきました。「こちらはビフです」と騎
士たちは言いました。「ビフは騎士になりた
いのです」。 |
| 17 | King Arthur laughed.
“Girls can’t be knights,” he said.
“Why not?” asked Biff. | アーサー王は笑いました。
「女の子は騎士にはなれまい」とアーサ
ー王は言いました。「なぜダメなのです
か？」とビフは尋ねました。 |
| 18 | King Arthur called a meeting
but the knights argued. | アーサー王は会議を招集しましたが、騎
士たちは議論になりました。 |
| 19 | No one wanted to sit down.
They all wanted to sit near King
Arthur. | だれもすわりたがりませんでした。
みんなアーサー王の近くにすわりたかつ
たのです。 |
| 20 | Biff had a good idea.
She spoke to King Arthur.
“Get a round table,” she said. | ビフにはよい考えがありました。ビフはア
ーサー王に話しました。
「円卓にしたらどうですか」とビフは言
いました。 |
| 21 | The knights liked the round
table. “It’s brilliant!” they said.
“Now we won’t argue.” | 騎士たちは円卓が気に入りました。
「すばらしい！」と騎士たちは言いま
した。「もう議論なくてよいのだな」。 |
| 22 | The knights sat round the table.
“Biff’s idea is great,” said one.
“She should be a knight!” | 騎士たちは円卓にすわりました。
「ビフの考えはすばらしい」ある騎士が言
いました。「ビフは騎士になるべきだ！」 |

23	“So we all agree,” said King Arthur. “Biff can be a knight.” But just then the key glowed.	「では全員賛成ですね」とアーサー王は言いました。「ビフは騎士になることができます。」するとちょうどその時、鍵が光りました。
24	Biff was cross with the magic key. “It glowed just as I was about to be made a knight,” she said. “It’s not fair.”	ビフはマジックキーに怒りました。 「鍵はちょうどわたしが騎士になれるという時に光ったのよ。 「そんなの不公平よ。」

After Reading

積極的に意思表示するビフは、リッパです。どのように自分の考えを述べていくのか、とても参考になります。円卓会議で知られているアーサー王についても、読んでいくうちにもっともっと知りたくなりますね。

アーサー王

ORT が描かれるときには、まずイラストから描きはじめるそうです。「多聴多読マガジン」のインタビューによれば、アレックス・ブリクタ氏がイラストを描き、ロドリック・ハント氏が物語の構想を練るのです。特に歴史ものを書くときには、歴史的に正しく描くように調査をしていくそうです。アーサー王は実在の人物ではないと推察されていますが、『ブリテン列王記』では円卓の騎士が実際に *It's Not Fair* p.22-23 にあるように描かれています。

クラスで楽しもう

欧米では fair かどうかというのはとても気にすることのようです。会話でも “That’s not fair.” “そんなのずい(不公平)” というフレーズをよく耳にします。*It’s Not Fair* では、男女同権について問われています。教室でも fair とは何かについて考えてみましょう。

- 1) *It's Not Fair* の本の中で、ビフが not fair だと思ったことがわかる文章にしるしをします。それらをホワイトボードに書き出します。

例:

p.6 The boys were knights.

p.7 Biff wanted to be a knight. Why can't girls be knights?

p.13, p.17 Girls can't be knights.

- 2) 次に何が問題になっているのかを考えます。女の子だから騎士になれないと語られていることがわかりますね。
- 3) その原因・理由を考えてみます。

会話例: 指導者 Why do you think girls can't be knights?

(なぜ女の子は騎士になれないと考えますか?)

生徒 Because most people think boys are stronger than girls.

(大抵の人が男の子の方が女の子より強いと考えているから。)

I think that girls had other things to do.

(女の子は他にすることがあったから。)

- 4) ビフが騎士になれると言われる過程を見てみましょう。p.17 “Why not?”「なぜダメなのですか？」と、きちんと自分で理由を聞いています。p.20 では“Get a round table,”「円卓にしたらどうですか？」と、適切な提案を積極的にしています。p.22 では、その考えが認められて、ついに“*She should be a knight.*”「ビフは騎士になるべきだ！」と一人の心を動かし、ついにアーサー王に“*Biff can be a knight.*”「ビフは騎士になることができます。」とまで言わせることに成功するのです。
- 5) 現代にある差別に対して、考察を行うことができる本書ですが、自分の考えをあきらめずに述べていくお手本にもなります。会話文のやりとりを丁寧に追っていくと、適切な自己表現を通して成功を導く道が見えてきます。
- 6) イラストではビフの表情がページごとにちがって描かれています。気持ちがそこには集約されています。まとめとして、CDを流しながらビフの表情に注目して文章を読んでいきましょう。

ことばの解説

p.3 King Arthur アーサー王。「アーサー王物語」はケルト人の伝説である中世の騎士文学の代表作である。「ブリトン列王伝」(1136 年頃)では、円卓の騎士の物語を中心に戦いなどが描かれている。

p.5 round table 円卓 p.6 It's not fair. 「不公平だ。」

p.7 Why can't ~ ~できないの(できればよいのに) p.10 castle お城

p.11 yuk げーっ(嫌いなものや不愉快なものに対して言う)

p.12 cross 怒る・反対する

p.17 Why not? なぜ?ここでは Why can't girls be knights?の意味で、「どうして女の子は騎士になれないの?」

p.18 call a meeting 会議を招集する argue(d) 議論する

p.22 should すべき p.23 agree 賛成する

p.24 just as ちょうど~する時に、とたん was about to ~しそうだった

【編集部より】

以前の版ではビフが女の子だからという理由で騎士にはなれないため「It's Not Fair」という結末だったのですが、昨今「男女平等」が叫ばれる観点からエンディングが変更され「It's Not Fair」の使われ方が変わりました。それに伴い本文 p.22 以降の文章も一部変更されています。

The Great Race 「すごいレース」 (324 語)

Before Reading

ものすごいスピードで車が進んでいきますね。どんなレースになるのでしょうか。

	The Great Race	すごいレース
1	Gran wanted a new car. Biff and Chip were sad. They liked Gran's old car.	おばあちゃんは新しい車をほしがっていました。 ビフとチップは悲しく思いました。 おばあちゃんの古い車が好きだったのです。
2	Gran liked this car. Biff was worried. The car was too fast for Gran.	おばあちゃんはこの車が気に入りました。 ビフは心配でした。 車はおばあちゃんにはスピードが出すぎます。
3	Gran bought the fast car. She drove it home. "Oh no!" said Dad.	おばあちゃんはスポーツカーを買いました。 家まで乗って帰りました。 「なんてことだ！」とパパが言いました。
4	Mum was cross with Gran. "That car is too fast," she said. Gran was upset.	ママはおばあちゃんに怒っていました。 「あの車は速すぎるでしょ」とママは言いました。 おばあちゃんは落ち込みました。
5	The magic key glowed. The magic took Biff and Chip. It took Gran, too.	マジック・キーが光りました。 魔法にビフとチップがかかりました。 おばあちゃんもでした。
6	The magic took them to a race. "Come on," said Gran. "This is my new car."	まほうでレースに来ました。 「おいで。」とおばあちゃんが言いました。 「これが私の新しい車よ。」

7	“Oh Gran!” said Biff. “What would Mum say?” “Never mind Mum,” said Gran.	「だめよ！」とビフが言いました。 「何てママが言うことかしら？」 「気にしないの」とおばあちゃんが言いました。
8	Gran found a map. They all looked at it.	おばあちゃんは地図を見つけました。 みんなでそれを見ました。
9	A man looked at Gran. He was a bad man. He was called the Baron.	男の人がおばあちゃんを見ていました。 その人は悪いやつでした。 バロンと呼ばれていました。
10	The children looked at the Baron. The Baron looked at the children. “Ha!” said the Baron. “You won’t win.”	子どもたちはバロンを見ました。 バロンは子どもたちを見ました。 「ふん！」とバロンは言いました。 「勝てるまい」。
11	A man changed the signpost. “Ha! Ha!” said the man. “Now the Baron will win.”	男の人が標識を変えました。 「は！は！」と男の人は言いました。 「これでバロン様が勝つだろう」。
12	The map blew away. “Which way?” asked Gran. Chip didn’t know.	地図が吹き飛んでしまいました。 「どっちでしょう？」おばあさんは聞きました。 チップにはわかりませんでした。
13	They didn’t see the signpost. Gran turned left. “Grrr” said the man.	みんなは標識を見ませんでした。 おばあちゃんは左に曲がりました。 「うー」と男の人はいいました。
14	They came to the mountains. “Slow down,” shouted Biff. “No. This is fun,” said Gran.	山に来ました。 「スピードを落として」とビフが叫びました。 「いいえ。楽しいもの」とおばあちゃんは言いました。

15	The Baron put oil on the road. “That will do it,” he said. “That will stop them.”	バロンが道路に灯油をまきました。 「これでよし」とバロンは言いました。 「これでかれらを止められる」。
16	The car skidded on the oil. It crashed through the fence and went down the mountain	車は油で横滑りました。 フェンスをつきやぶり、山の下に落ちてしまいました。
17	“Hold on,” shouted Gran. “Oh no!” shouted Biff. “Oh help!” shouted Chip.	「つかまって」とおばあちゃんは叫びました。 「きゃー！」とビフが叫びました。 「助けて！」とチップが叫びました。
18	The Baron was behind. Gran was in front. She was winning the race.	バロンが後ろにいました。 おばあちゃんが前にいました。 おばあちゃんが勝っていました。
19	Biff looked behind. “Come on Gran,” she shouted.	ビフが振り返ってみました。 「行くわよ、おばあちゃん」とビフは言いました。
20	“Which way?” called Gran. Chip didn’t know. Gran turned on to a bridge.	「どっち？」とおばあちゃんが叫びました。 チップにはわかりませんでした。 おばあちゃんは橋に向かいました。
21	The bridge was dangerous. “Not this way!” called Chip.	橋は危険でした。 「こっちじゃないよ！」チップが叫びました。
22	The bridge broke. The Baron’s car crashed into the river.	橋がこわれてしまいました。バロンの車は川 に落ちてしまいました。
23	Gran won the race. “Hooray!” called Biff and Chip. The magic key glowed.	おばあちゃんがレースに勝ちました。 「やったー！」とビフとチップが叫びました。 マジック・キーが光りました。

24	Gran took the fast car back. She bought a little car. "This one will do," she said.	おばあちゃんはスポーツカーを返しました。 おばあちゃんはちいさな車を買いました。 「これで十分」とおばあちゃんは言いました。
----	---	--

After Reading

おばあさんは、全くうろたえる事なく、果敢にレースに挑むようなパワーを秘めています。Ha ! Ha!, Grrr!, Hooray!など CD を聞きながら言う練習をしてみてください。CD を聞きながら、会話の部分だけに集中してイントネーションやリズムをまねしながら言ってみると、言いなれてきて実際の場面にも応用して使えるようになります。

will do

「間に合う・役に立つ」というときには、~will do で表せます。これが反対に It won't do. ですと、「~は無理だ・よくない」となります。That will do. ならば「それで間に合う」、This won't do. は「それでは無理だ」ということになります。p.15 では That will do it. とバロンが言っています。灯油でおばあちゃんの車が止まると思っているわけです。

クラスで楽しもう

The Great Race では、冒険心あふれるおばあさんが悪者にもめげずレースで優勝を勝ち取ります。お話の中から質問を作って遊ぶアクティビティーをご紹介します。これは質問を作ろうとすることでより深く読むことと、アクティビティーを通し発音チェックやどの程度声に出して読めるかを確認する事が目的です。

準備するもの：カードに一枚ずつ、Who What Which Where When How と書き6枚用意します。

1) 用意したカードから一枚生徒が引きます。その疑問詞を使ってひとりずつ質問を

作り書いておきます。いくつでも作ります。人に見せないようにします。

たとえば、Who のカードで作ることになった場合だと、p.11 A man changed the signpost.という文章から、Who changed the signpost? という質問が作れます。

- 2) 順番に本から文章をひとつ言っていきます。本のどの一文を言ってもよいのですが、誰かが作った問題の答えとなっている文章を読んだらその人は負けです。作った人は1ポイント得ます。
- 3) 一度負けてしまってもそのまま文章読みを続けます。
- 4) ある程度質問があたってしまったら終了します。
- 5) 最後にまとめの意味で、一回 CD に合わせてみんなで本を読んでおきます。質問を作った答えの文章の所で、手をあげてもらいます。

ことばの解説

p.2 worried 心配した・不安な p.4 upset 動揺させる・おろおろする

p.5 glow (ed) 光る

p.9 Baron ここでは固有名詞ですが、baron には男爵・大実業家(影響力のあるひと)などの意味があります。

p.10 Ha 驚き・喜び・疑う気持ちなどを表すことばで、「へえ」、「おや」などにあたる。

p.11 signpost 標識・指標

p.13 Grrr うなり声。不機嫌でうなるときや犬のうなり声をさす。r の数によってうなり声の長さが変わる。

p.16 skid 横すべりする crash (ed) 衝突する

p.17 Hold on つかまる・しがみつく。駅やデパートなどで Hold on to the handrail. 「手すりにおつかまりください。」というときにもアナウンスで聞かれます。電話で「お待ちください」というときにも Hold on please. といいますね。

p.24 will do 役に立つ

Monster Mistake 「いつわりのモンスター」 (334語)

Before Reading

広々した湖を驚いた表情で指差すチップ。ビフも見入っています。湖に浮かぶものはいったい…？

	A Monster Mistake	いつわりのモンスター
1	Mum and Gran went on holiday. They went to Scotland. They took the children	ママとおばあちゃんは休暇をとりました。ふたりはスコットランドにいきました。子どもたちも連れていきました。
2	They stayed in a cottage. The cottage was by a lake. It had a boat	みんなはコテージに泊まりました。コテージは湖畔にありました。ボートもついていました。
3	“I like it here,” said Biff. “We can go sailing.” “And fishing,” said Kipper.	「ここが好きだわ」とビフが言いました。「ヨット乗りもできるわ」「釣りもね」とキッパーが言いました。
4	Everyone had a good time. Biff and Kipper went fishing.	みんなが楽しみました。ビフとキッパーは釣りをしました。
5	Gran and Chip painted a picture. Mum sat in the sun and read a book. “This is fun,” she said.	おばあちゃんとチップは絵を描きました。ママはおひさまを浴びて腰かけて本を読んでいた。「これは楽しいわ」とママは言いました。
6	Everyone looked at Gran’s picture. “Oh Gran!” said Chip. She had painted a monster.	みんながおばあちゃんの絵を見ました。「やだ！おばあちゃん」とチップが言いました。彼女はモンスターを描いていたのです。

7	Kipper looked at the monster. Gran laughed. “There’s no such thing,” she said.	キッパーはモンスターを見ました。 おばあちゃんは笑いました。 「そんなものないわよ」とおばあちゃんは言いました。
8	Mum went shopping. She took Kipper. Biff and Chip stayed with Gran.	ママは買い物に行きました。 ママはキッパーを連れて行きました。 ビフとチップはおばあちゃんと残りました。
9	Mum looked at the shops. “Let’s get Dad a postcard,” she said.	ママはお店を見て歩きました。 「パパにははがきを書かなくてはね」とママが言いました。
10	Kipper went into a shop. “I want a monster for me and a postcard for Dad,” he said.	キッパーはお店に入っていました。 「僕はモンスターがほしくてパパにははがきを買いたいんだ」とキッパーが言いました。
11	Kipper posted the card to Dad. “I wish Dad was here,” he said.	キッパーはパパに絵はがきを投函しました。 「パパがここにいたらなあ」とキッパーは言いました。
12	Gran wanted to play a joke on Mum. “Let’s make a monster,” she said.	おばあちゃんはママをからかおうとしました。「モンスターを作ろうよ」とおばあちゃんは言いました。
13	“I don’t get it,” said Biff. “Wait and see,” said Gran.	「よくわからないわ」とビフが答えました。 「見ていればわかるわ」とおばあちゃんと言いました。
14	They put the monster in the lake. It made the children laugh. “It looks brilliant!” said Chip	みんなはモンスターを湖に入れました。 それで子どもたちは笑いました。 「すごくいいよ！」とチップが言いました。

- | | | |
|----|--|---|
| 15 | <p>“What a good joke,” said Biff.
 “What a good joke to play on Mum.”</p> | <p>「なんてよい出来ばえなんだろう」とビフが言いました。「ママをからかうなんてすごいね」</p> |
| 16 | <p>Mum and Kipper came back.
 Gran pulled the rope.
 The monster went across the lake.</p> | <p>ママとキッパーが戻ってきました。
 おばあちゃんはロープを引っ張りました。
 モンスターが湖を横切りました。</p> |
| 17 | <p>“A real monster,” said Kipper.
 “I don’t believe it,” said Mum.
 “There’s no such thing.”</p> | <p>「本物のモンスターだ」とキッパーが言いました。「信じないわよ」とママが言いました。「そんなもんいないもの」</p> |
| 18 | <p>Some people saw Gran’s monster. They were amazed.
 They took photographs.</p> | <p>おばあちゃんのモンスターを見た人がいました。すごく驚きました。
 写真をとりました。</p> |
| 19 | <p>The children watched television.
 “Gran’s monster!” said Chip.
 “Oh no!” groaned Biff.</p> | <p>子どもたちはテレビを見ていました。「おばあちゃんのモンスターだ！」とチップが言いました。「どうしよう！」とビフがうなりました。</p> |
| 20 | <p>The next day lots of people came.
 There were lots and lots and lots of people.</p> | <p>翌日たくさんの人がやってきました。いっぱい、いっぱいやってきました。どんどん、どんどん、とてもたくさんの人がきました。</p> |
| 21 | <p>They wanted to see the monster.
 “Oh Gran!” said Mum.
 “Now look what you’ve done.”</p> | <p>人々はモンスターを見たくてきました。「おばあちゃん！」とママが言いました。「自分のやってしまったことがわかるの」</p> |

22	Gran told everyone about the monster. "It was just a joke," she said.	おばあちゃんはみんなにモンスターについて説明しました。 「ほんの冗談だったのです」とおばあちゃんは言いました。
23	A man from the television came. Mum was cross with Gran but everyone laughed.	テレビ局の人もきました。 ママはおばあちゃんを怒りましたが、みんなは笑いました。
24	Gran was sorry. "A monster?" she said. "There is no such thing."	おばあちゃんは反省しました。 「モンスター？」とおばあちゃんは言いました。 「そんなもんないわよ」。

After Reading

おばあさんになっても遊び心いっぱい、ママにも怒られてしまうおばあちゃんですが、大騒ぎになった時に素直にあやまれたのはまた勇気があります。会話には英語らしい表現があふれています。そのまま覚えていきましょう。

言えそうで思いつかない表現

日本語で考えたセリフを英語に直していくのではなく、絵本を読んだときにはふとした表現を CD の音に合わせて記憶していくようにしていきます。覚えておくといざというときに、口から出やすくなるようです。

p.5 This is fun. 「楽しいな」という時に言います。

p.7 There's no such thing. 「そんな(うまい・馬鹿な)話はない」 Mary said no such thing. メアリーはそんなことを言っていません。などように使います。

p.11 I wish Dad was here. 「パパがここにいたならよかったのに(でもいない)」という文章で仮定法といわれるものです。

p.13 I don't get it. 「わからない」get にはいろいろな意味がありますが、ここでは理解するという意味で使われています。

p.14 It looks brilliant! 「すばらしく見える！」brilliant はイギリス英語で、とてもすてきだというときに言います。

クラスで楽しもう

お話を楽しんだらそれを友達に伝えるということをしていきます。

物語を読んだらその要旨をまとめていくのが目的です。英語のレベルに応じてまとめ方を変えていきます。

- 1) お話の流れを覚えられるくらい何回か読みます。まずは CD を聞きながら、次に黙読、そして今度はシャドーイング(聞こえた所だけ CD に合わせてくりかえす)などをしながら試してください。
- 2) お話を覚えたら、話の内容を友達に伝えていきます。ペアーを作ってひとりが話もうひとりが聞きます。文章を見ないと自分で文章を作れない場合には、見て話していきます。その場合には、文章のどこにそのページの出来事が書かれているのかを指導者と一緒に考えます。はじめの文章を言えばお話の要旨が伝わる場合が多いです。スラスラ自分のことばで伝えられる場合には、絵だけを見て伝えていきます。
- 3) ペアーで役割を交代して、聞いていた人と話していた人がいれかわります。

ことばの解説

p.1 holiday 休暇・祝日 go on holiday 休暇旅行に行く

p.2 cottage 小さな家・コテージ p.3 go sailing ヨット乗りにいく

p.13 get it わかる wait and see 成り行きを見守る

p.14 brilliant 輝く・優秀な・すばらしい(英)

p.16 across 向こうへ・横切って p.17 believe 信じる p.19 groan うめく・うなる

本文著者 宮下いづみ

Eunice English Tutorial 主宰

SEG 英語多読コース講師

東京音楽大学付属高校非常勤講師